

はじめてみよう！緑のカーテンづくり



○「緑のカーテン」とは？

ゴーヤやアサガオなどツル性の植物を、窓の外や壁面に張ったネットなどに這わせて、カーテンのように覆ったものを「緑のカーテン」といいます。自然の力を利用した夏場の省エネルギー対策です。

○ どんな効果があるの？

★ 日差しをさえぎってお部屋を涼しくしてくれます！

たくさん茂った葉が、窓から入る直射日光をさえぎるので、室内温度の上昇を抑えます。

さらに、建物の壁などに熱を蓄積させないのでヒートアイランド現象の緩和にも役立ちます。

★ 葉から蒸発する水分が周りの温度を下げます！

植物が根から吸った水分を葉から蒸発させ、周りの熱を奪います。

さらにその水蒸気を含んでいる「涼風」を室内に取り込めば、エアコンなど冷房機器の使用を抑えることができ、省エネになります。

★ 花や実も楽しめます！

ゴーヤは花を楽しめる他、収穫した実を料理することもできます。

○ 実際に育ててみよう！（ゴーヤの場合）

★ 用意するもの

タネをまくとき

- 培養土 鉢底石または軽石（1～2cm粒）
- プランター（コンテナ）四角でも丸でもOK。深さは30cmぐらい。

ネットを張るとき

- 園芸ネット（マス目の大きさは10cm以上のもの。または麻ひも、シュロ縄など。）
- 園芸支柱 ロープ、ひも（ネットや支柱をしばるため）
- くい、アンカー、ブロック、レンガ

その他

- じょうろ シャベル 肥料



1. タネをまく前に

- ・プランターに植える場合は、大きめで深さ30cmぐらいのものがおすすめです。

底に、鉢底石または軽石を3cmぐらい敷き詰めてください。

（底の穴が大きい場合は、軽石や土がもれないようにアミでふさいでください。）

その上に培養土と肥料を混ぜたものを、プランターのふちから2～3cm低くなるよう入れてください。
元肥入りの野菜用の培養土を利用すると便利です。

- ・庭に地植えする場合は、深さ30cmぐらい掘り起こして、腐葉土や石灰、肥料を混ぜてください。

2. タネをまく

- ・タネまきは、4月中旬～6月中旬ごろです。（ゴーヤの発芽適温は25～30℃です。気温が低い時期は、プランターやポットを屋内に入れたりビニールで覆ったりして保温してください。）
- ・タネは皮が固いのでぬるま湯に一晩つけておきます。また、水に浮きやすいので、ティッシュペーパーなどをかぶせるようにしてください。
- ・深さ2cmくらいの穴に2～3粒ずつまき、隣の穴と20～30cm（地植えの場合50cm）程度間隔をあけます。上からやさしく土を1cmくらいかけ、水を十分あげてください。深すぎると芽が出にくくなります。
- ・芽が出て本葉が2～3枚になったら一番元気な苗を残し、他の苗は取り除いてください（「間引き」といいます）。

3. 水やり

- ・苗が小さいうちは水をやり過ぎると根が腐るので、タネをまいたあとしばらくは土の表面が乾いてきたら水をあげてください。
- ・本葉が出てきたころから夏の暑い時期にかけて、だんだん水を多くしていきます。

4. ネットを張る

- ・生育が進んできたら、ネットや支柱を準備し、くいやレンガ、ベランダの手すりなどにしっかり固定してください。

5. 摘芯・誘引

- ・本葉が5～6枚になったら、茎の先端を2～3cm切ってください（「摘芯（てきしん）」といいます）。こうすることで脇芽（子ツル）がたくさん出やすくなります。
- ・子ツルも摘芯すると孫ツルが出てきます。
ツルが伸びてきたら、ネットに絡まるように、所々をヒモなどで軽く留めてください（「誘引（ゆういん）」といいます）。

6. 水やり（梅雨明け以降）

- ・暑くなって葉がたくさん茂ると、葉から蒸発する水分も多くなり、地中の水分が不足がちになります。特にプランターでは、梅雨明け以降が要注意です。
朝の涼しいうちに、プランターの底からしみ出るくらい水をあげてください。
- ・日中、地面が熱くなっている場合は、地中でお湯になって根の先端が傷んでしまうので水やりを避けましょう。汲み置きしていた水、ホースの中に溜まっていた水は日光で温まっていますので避けて、冷たい水をたっぷりあげてください。

7. 授粉

- ・ゴーヤはウリ科なので、「雄花」と「雌花」がつきます。
なかなか実がつかない場合は、「雄花」で「雌花」に「授粉」してください。

8. 追肥

- ・花が咲く、実がつき始めるなどの生長が著しい時期には、必要に応じ、栄養分を補給するために肥料をあげてください（「追肥」といいます）。
追肥が必要なのは、葉の色が薄くなったり、黄色くなりかけた場合です。
- ・化成肥料をあげる時は、パッケージなどに記載された説明をよく読んで適量をあげてください。
あげすぎると花が咲かなくなるので注意しましょう。

9. 収穫

- ・実が緑のうちに収穫して料理しましょう。目安は開花後 15～20 日です。
- ・収穫しないと次第に実が黄色くなってきてはじけるように裂けてきます。
- ・タネを収穫する場合は、実をネットで覆い、実が裂けてくるのを待ちます。

10. 片付け

全体的に枯れて葉が黄色くなってきたら、片付け時です。

- ・ネットとツル
ネットをおろしてからツルの取り外し作業をしてください。
ネットをおろす際は、転落、落下物などに十分注意をしてください。
- ・土
ふるいなどで根を取り除いて、腐葉土や堆肥、土壌改良材（リサイクル用土）を混ぜることで、来年も再利用できます。
生育途中で植物に病気が発生した場合は、熱湯や日光で消毒することをおすすめします。

